

宮古西原方言の語彙(4)

名嘉真, 三成 / NAKAMA, Mitsunari

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

16

(開始ページ / Start Page)

21

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1992-03-10

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012610>

宮古西原方言の語彙 (Ⅳ)

A Study of Vocabulary on Nishihara Dialect in Miyako Is. (Ⅳ)

名嘉真 三 成

てい

-てい -ti [接尾] たち。複数を示す。ばんてい (私たち 我々)。㊤ばんちゃー やーん
かい はらでい (我々は家に帰ろう)。

ていー ti: [名] 手。二本足で立つ動物の胴体の上部から左右に分かれた部分で、物を持っ
たりする。㊤～ひー にむっちゅ むちい (手で荷物を持つ)。「手を切る」「手に汗を
握る」「話し手」「手みやげ」などの用法はない。

ていー ti: [名] 一。一つ。一番初めの数。ていー たー みー ゆー いちい むー
なな やー くく とぅーと数える時用いる。

ていー ti: [感] そう。他人から話を聞いて、そのことについて念を押して確認する時に言
う。㊤～ あちゃー やしいんな (そう、明日は休みか)。

ていー ti: [助] と。格助詞。引用を表す。㊤かぬ やまー たかかん～ あいたい (あの
山は高いと言った)。

ていーあらかん ti:arakag [形] 手荒い。動作が荒い。ていーあらびとう (手の荒い人)。

でいーぐ di:gu (植) 梯姑。インド・マライ原産のマメ科の高木。春に赤い花が咲く。

ていーじいかん ti:dzikag [名] 手づかみ。手でつかむこと。㊤～なひー とぅい (手づか
みで取る)。

ていーしいぐとう ti:sīgutu [名] 手仕事。裁縫や手芸など手先の器用さで行う仕事。㊤～
ひー むぬー ふぁう (手仕事で飯を食う)。

ていーだるかん ti:darukag [形] 手がだるい。手が疲れなどで力が出ない様子。㊤あてい
はたらっちゃひー ～ (一生懸命働いて手がだるい)。

ていーちっちゃ ti:tʃittʃa [名] 手の切れた者。

ていーちい ti:tʃi [名] 一つ。最初の数。ひていーちいとも言う。ていーちい たーちい
みーちい ゆーちい いちい ちい んーちい ななちい やーちい くくぬちい
とぅーと数える。

ていーながかん ti:nagakag [形] 手が長い。㊤さるー ～ (猿は手が長い)。

ていーながびとう ti:nagabitu [名] 手の長い者。

ていーにー ti:ni: [名] (新) 丁寧。相手の気持を考えて注意深く行動すること。㊤～んかんまいゆ さぎる (丁寧に挨拶しなさい)。

ていーにゅーかん ti:nju:kag [形] 手が遅い。仕事などする時動作がにぶい。㊤かいがしいかまー ～ (彼の仕事はのろい)。

ていーぬあつばあ ti:nuavva [連語] 手の脂。手ににじむ汗。精神的に苦しい時などに出る粘質の汗。㊤うとうるっさーひー ～ぬ いでいい (恐怖で手に脂汗が出る)。

ていーぬばた ti:nubata [名] 手のひら。たなごころ。

ていーぬん ti:nug [名] 尻。腰の下のふっくらとした部分。ていびとも言う。

ていーはじい ti:hadzī [名] 手足。手と足。㊤～ぬ ばうん ない (手足が棒になる)。

ていーびゃーかん ti:bja:kag [形] 手が早い。物事の処理が敏速である様子。ていびゃーかんととも言う。㊤ていーびゃーかいば しいかまぬ はーむぬ (手が早いので仕事が速い)。

ていーふうい ti:fui [名] 手振り。手を振ること。㊤～やひー ばきゃーりい (手を振って別れる)。

ていーふうし ti:fufi [名] 手癖。ほしいと思う物につい手を出す癖。㊤～ぬ ばいかん (手癖が悪い)。

ていーふうじい ti:fudzī [名] 手首。手と手のひらとをつないでいる部分。㊤～ぬ まがい (手首が曲がる)。

ていーぶすく ti:busuku [名] 手不足。人手が少ないこと。㊤～ひー しいかまん ならん (人手不足で仕事にならない)。

ていーぶりゃ ti:burja [名] 手の折れた者。手の曲がった者。足の折れた者は、はじいぶりゃと言う。

ていーまっふあ ti:maffa [名] 手枕。腕を曲げて枕にすること。㊤ていーまっふあーひー にう (手枕で寝る)。

ていーまみ ti:mami [名] 手豆。手にできる豆。こすれて手にできる豆のような水ぶくれ。

ていーまるかん ti:marukag [形] 手が短い。ていーまるびとう (手が短い人)。

ていーまるびとう ti:marubitu [名] 手が短い人。

ていーり ti:ri [名] 手入れ。作られた物にさらに手を加えよりよくすること。㊤きかいゆ ていーりゅー あしい (機械を手入れする)。

ていーんたう ti:ntau [名] 手でいじくりまわすこと。㊤とけいゆ ～やひー んだい (時計を手でいじくりまわして壊す)。

ていーい tii [動] 照る。太陽や月などが光って、辺りを明るくする。㊤ていだぬ あかーあ

か ～ (太陽が明るく照る)。

ていう tiu [動] 投げる。手でつかんだ物はずみをつけて遠くへ移動させる。なぎいとも言う。㊤いっす ～ (石を投げる)。試験を投げる、さじを投げるなど捨てる意味では用いない。

ていがー tiga: [助] なら。接続助詞。仮定条件を表す。㊤かいが いふうていがー ばんまい いかでい (彼が行くならほくも行こう)。

ていがきい tigakii [動] 手がける。何か物事をし始める。㊤しいかまう ～ (仕事をし始める)。

ていかじい tikadzī [名] 手数。何か物事をする時の手の数。

でいかしい dikasī [動] でかす。困難と思われる事を成し遂げる。

ていがた tigata [名] 手形。手のひらに墨などを塗り物に押した形。

ていがみ tigami [名] 手紙。文を書いて他人に送る文書。㊤ていがみゅー かふう (手紙を書く)。

ていがら tigara [名] 手柄。功績。他人にほめられる立派な行い。㊤～う たていい (手柄を立てる)。

ていき tiki [名] 敵。戦いや競争などの相手。みかたの対。ていきみかた (敵味方)。

でいきあがい dikiagai [動] (新) でき上がる。物が使える状態に整っている。㊤たぬんたい ちいんな でいきあがりーどう うい (頼んだ着物はでき上がっている)。

でいきい dikii [動] (新) できる。物事が生じたり可能になる。㊤くまんどう たまなー ～ (ここにキャベツはできる)。

でいきしゃー dikifa: [名] できる人。でき物。才能があり好成績の人。

ていきがた tikigata [名] 敵方。敵になった方。㊤～んかい まーすー うくい (敵方に塩を送る)。

ていきみかた tikimikata [名] 敵味方。敵と味方。㊤～ん なりー たたかう (敵味方になって戦う)。

ていぐすい tigusui [名] てぐす。釣糸に用いるもの。㊤～ひー いうー ちいい (てぐすで魚を釣る)。

ていさぎ tisagi [名] 手さげ。手にさげて持つかばんなどのこと。ていさぎかばん (手さげ鞆)、ていさぎぶくる (手さげ袋)。

ていさぐい tisagui [名] 手探り。手先であれこれ探すこと。㊤～やひー とうみい (手探りで探す)。

ていさじい tisadzī [名] 手ぬぐい。顔や体をふくの用に用いるもめんの布。さじいとも言う。㊤～ひー どうーゆ ふちい (手ぬぐいで体をふく)。

ていじいふうん tidzīfug [名] 手こぶし。握り拳。固く握った手のこと。

ていそー tiso: [名] 手相。運勢が分かるという手筋。㊦～ゆ みい（手相を見る）。

ていだ tida [名] 太陽。地球に光や熱を与える恒星。㊦～ぬ ていい（太陽が照る）。
ていだがなしいとも言う。

ていだあみ tidaami [名] 日照り雨。太陽が出ているのに雨が降ること。ひーていーあみ
とも言う。㊦～ぬ ふうう（日照り雨が降る）。

ていだがなしい tidaganasī [名] 太陽。太陽を神性化した呼び名。ちいちいがなしい（お
月様）。

ていだま tidama [名] 手玉。手につける飾り玉。村の神女などが祭りの時に身につけて用
いる。

ていちい titsī [名]（新）鉄。堅くて銀色のつやをもち、空気に放置するとさびやすい金
属。あかがにが古い呼び方。

ていっぷー tippu: [名] 鉄砲。㊦～ひー うちい（鉄砲で撃つ）。

ていーぬくー tinuku: [連語] 手の甲。手首から先の物を握ることのできない外側の面。

ていび tibi [名] ①尻。ていーぬんとも。②びり。終わり。㊦～からどう ふうう（びり
から来る）。

ていびかうかん tibikaukaŋ [形] 尻がかゆい。

ていびかた tibikata [名] 後ろ方。正面と反対の方向。㊦～んかい ゆっちい（後ろ方に
寄る）。

ていびがるかん tibigarukaŋ [形] 尻が軽い。仕事のためよく動きまわる様子。

ていびだる tibidaru [名] 尻が重いこと。仕事をせず座ってばかりいること。またその人。

ていびだるかん tibidarukaŋ [形] 尻が重い様子。仕事をせず座ってばかりいる様子。てい
びんぶかんとも言う。

ていびぬみー tibinumi: [名] 尻の穴。肛門。

ていびんぶかん tibimbukaŋ [形] 尻が重い。気軽に立って動こうとしない様子。

ていまー tima: [名] 手間賃。㊦～ゆ いいい（手間賃を貰う）。

ていみじい timidzī [名] 手水。手ですくった水。

ていら tira [名] 寺。仏事を行う所。宮古には平良市街にある。ていらぬばうじい（寺の
坊主）。

ていらしい tirasī [動] 照らす。光をあてて明るくする。㊦みなかう とぅーいひー ～
（庭をランプで照らす）。

ている tiru [名] 手にさげて持つ竹製の籠。

ていん tig [名] 天。空。じいー（地）の対。神・靈魂のいる所と考えられている。

-ていん -tig [助] とも。㊦なう～ あっじゃいん（何とも言えない）。ちゅんとも言う。

でいん dig [名] 銭。お金。金銭。㊦～ぬ まうきい（お金を儲ける）。

ていんか tigka [名] 天下。全世界。㊦～う とうい (天下をとる)。

ていんがー tinga: [名] 天の川。夜白くて川のように見える星群。

ていんがなしい tigganasi [名] 天の神様。神様。㊦ていんがなっす うがん (神様を拝む)。

でいんかりや digkarja [名] 金をよく借りる人。金を借りる人。

でいんかりやしや digkarjaša [名] 金貸し。高利貸し。

でいんき digki [名] 電気。物を動かすエネルギーの一つ。電燈。㊦でいんきゅー ちいきい (電気をつける)。

ていんぐ tingu [名] 天狗。山に住み、鼻が長く飛行できる想像上の怪物。ていんぐぬあうじい (天狗の扇)。ていんぐばな (天狗鼻)。

でいんぐとう diggutū [名] 金事。金銭のこと。㊦でいんぐとうーばー まさがんていーあっす (金銭のことは正しくしなさい)。

ていんぐばな tiggubana [名] 天狗鼻。天狗のように長い鼻。㊦かやばたん ささいーん ない (蜂に刺されて天狗鼻になる)。

でいんぐら diggura [名] 金倉。金銭や宝物をしまっておく倉。

でいんさんみん digsammiḡ [名] お金の計算。㊦～ぬ あたらん (お金の計算が合わない)。

ていんじゃう tindzau [名] 天井。屋根裏を隠すために上部に張った薄い板。㊦ゆむぬぬーん きじい (鼠が天井で騒ぐ)。

でいんたーしい dintasī [名] 浪費。㊦でいんたーっさ ばいむぬ (浪費は悪いことだ)。

でいんたーしいびとう dintasībitu [名] 金遣いの荒い者。でいんたーしゃとも言う。

でいんたーしゃ dintasja [名] 金遣いの荒い者。

でいんだか dindaka [名] 銭高。銭の総高。

でいんちいかう dintsikau [名] 金遣い。金を遣うこと。㊦～ゆばー まさがんていーあっす (金遣いは正しくしなさい)。

ていんとうー tintu: [名] 天道。空。天のこと。

ていんとうーむしい tintu:muṣī (動) てんとう虫。背中が半球形の赤・黒のまだらのある虫。

ていんぬひとう tinnuḡitu [連語] 天の人。天上の人。神。㊦～ぬ うりー んみゃーい (天の人が降りていらっしゃる)。

ていんばう timbau [名] 虹。雨上がりの空や滝などに七色の弓形をして見えるもの。㊦～ぬ かかい (虹がかかる)。

でいんばく dimbaku [名] お金を入れる箱。昔は木製のものが多かった。

ていんばちい timbatsī [名] 天罰。悪事への自然のむくい。

でいんぶくる dimbukuru [名] 錢袋。財布。

ていんぶら timpura [名] てんぶら。小麦粉を油で揚げたもの。さた〜（砂糖てんぶら）。いう〜（魚てんぶら）。す〜（野菜てんぶら）などがある。ぱんぴんとも言う。

ていんま timma [名] 伝馬。仁馬船の略。荷物を陸揚げする時などに用いる小船。ていんましんとも。

でいんまうき dimmauki [名] 金儲け。㊦でいんまうきゃー むちいかしいむぬ（金儲けは難しい）。

ていんまく timmaku [名] 天幕。テント。㊦ていんまくー はい（天幕を張る）。

ていんましん timmafij [名] 伝馬船。ていんまと略すことも。㊦〜ひー にーゆ あぎい（伝馬船で荷物を揚げる）。

でいんむちゃ dimmutja [名] 金持ち。

て

てーち te:tʃi [名] 一つ。第1番目の数。ていーちいとも言う。てーち たーち みーち ゆーち いちちと数える時用いる。

てん tej [名] (新) 点。①鉛筆の先などで付けたような小さな印。②成績を示す得点。

てんくてんくていー tejkutenkuti: [副] ガクンガクンと。びっこをひき歩く時の様子。㊦〜 あいちい（ガクンガクンと歩く）。

でんていー denti: [副] ドンと。物などが倒れる時の様子。㊦〜 しいまとうりゃぬ たうりい（ドンと関取が倒れる）。

でんぼー dempo: [名] (新) 電報。電信により行う通信のこと。㊦〜ゆ うちい（電報を打つ）。

でんわ deŋwa [名] (新) 電話。声の音波で離れている人と話せるようにした機械。㊦〜う かきい（電話をかける）。

とう

とう tu [助] と。格助詞。①動作・作用を行う上で要求される相手を示す。㊦うっとう とう しいまう とうい（弟と相撲を取る）。②比較の対象がそれである旨を示す。㊦ばが たきゃー っぶあとう ゆぬむぬ（ぼくの背丈は君と同じだ）。③ひとまとまりのものとして示す時用いる。㊦っぶあとう ばんとうどういらばいたい（君とぼくが選ばれた）。

-とう -tu [接尾] 斗。容積の単位。一石の十分の一。いっとう（一斗） にとう（二斗） さんとう（三斗） ゆんとう（四斗） のように数える。

どう du [助] ぞ。係助詞。体言や用言について強調の意味を表す。㊦っぶあどう ま

しい（君が良い） かちいどう しい（書きぞ為る）。

とうい tui [名]（動）鳥。体に羽毛が生え、空を飛ぶことの出来る動物。㊤～ぬ とうう（鳥が飛ぶ）。

とうい tui [名] 酉。十二支の一つ。第十番目。方向では西を、時間では午後五時から二時間を指す。に一（子） うしい（丑） とうら（寅） うー（卯） たちい（辰） みー（巳） うま（午） ひちい（未） さる（申） とうい（酉） いん（戌） びー（亥）と呼ぶ。

とうい tui [名] 樋。屋根の雨水を受けたり、水を離れた所にする仕掛け。㊤～ゆ とうーしい（樋を通す）。

とうい tui [動] 取る。①自分の手元に収める。㊤しゅむっちゅ ～（本を取る）。②盗む。㊤でいんぬ ～（お金を盗む）。③捕獲する。㊤ゆむぬー ～（鼠を取る）。

とういあーしい tuia:sī [動] 取り合やす。つり合いがとれるようにする。㊤くいと うかりゅー ～（あれとこれと取り合やす）。

とういあぎい tuia:gi [動] 取り上げる。特にとりたてて問題にしたり、申し出た事を無視せず聞き入れる。㊤しいまぬ むんだいゆ ～（集落の問題を取り上げる）。

とういいり tuiiri [名] 取り入れ。農作物の収穫。㊤くとうしいぬ まいぬ とういいりゃー いちい（今年の米の取り入れはいつだ）。

とういかいい tuikaii [動] 取り替える。ある物と他の物とを交替する。㊤たたみゅー みーむぬんかい ～（畳を新しい物と取り替える）。とういかいむぬ（取り替え物）。

とういかいしい tuikaisī [動] 取り返す。再び自分のものにしたり、もとのようにする。㊤しいまう ～（鳥を取り返す）。

とういかいむぬ tuikaimunu [名] 取り替え物。文替された物。㊤やどうぬ とういかいむぬー にゃーんな（戸の取り替え物はないか）。

とういかかい tuikakai [動] 取り掛かる。事をやり始める。㊤しいかまんかい ～（仕事に取り掛かる）。

とういかぐ tuikagu [名] 鳥かご。鳥を入れて飼うかご。㊤とういかぐん とういゆ いりー ちいかなう（鳥かごに鳥を入れて飼う）。

とういかくн tuikakug [動] 取り囲む。回りを封じるようにする。㊤しいまう ～（集落を取り囲む）。

とういさぎい tuisagii [動] 取り下げる。提出したものを元に戻す。㊤うったいゆ ～（訴えを取り下げる）。

とういしまい tuijimai [名] 取締り。違反行為などがないように監督すること。とういしまいじき（取締り期間）。

とういしまい tuijimai [動] 取締る。違反行為などのないように監督する。㊤ぬしい

- どうー ～（泥棒を取締る）。
- とういしまいじき tuijimaiziki [名] 取締り期間。
- とういしらび tuijirabi [名] 取調べ。詳しく調査すること。㊤とういしらびぬどうちゅーかい（取調べが厳しい）。
- とういしらびい tuijirabii [動] 取調べる。詳しく調査する。
- とういしいがい tuisigai [動] 取りすがる。衣服などを掴んで離れまいとする。㊤とういしいがりー たぬん（取りすがって頼む）。
- とういしょーぶ tuijo:bu [名] 取り勝負。取り合い。かーしいとういしょーぶ（菓子の取り合い）。㊤とういしょーぶー あしい（取り勝負を為る）。
- とういするいい tuisuruii [動] 取り揃える。漏れなく集める。㊤さやふうだーうゆ ～（大工道具を取り揃える）。
- とういちがいい tuitigaii [動] 取り違える。とういばっぱいいとも言う。㊤ふうにゅーとう ふーしいぬみーゆ ～（蜜柑と枇杷を取り違える）。
- とういちいきい tuitsikii [動] 取り付ける。器具などのある物に装着する。㊤はんどーるー ～（ハンドルを取り付ける）。
- とういちいちい tuitsitsi [名] 問い尋ねること。徹底的に質問すること。
- とういちいみ tuitsimi [名] 問いつめること。厳しく問いたですこと。
- とういちいみい tuitsimii [動] 問いつめる。本当のことを言うまで厳しく問いたです。
㊤っふあう ～（子供を問いつめる）。
- とういどうくる tuidukuru [名] 取り所。とりえ。長所。㊤かいが とういどうくるーゆー はたらちいくとう（彼の長所はよく働くことだ）。
- とういなうしい tuinausi [動] 取り直す。もう一度取る。㊤しいまう ～（相撲を取り直す）。
- とういぬくしい tuinukusi [動] 取り残す。取らないで置いておく。㊤とういぬくしいたい っさぬ ういい（取り残した雑草が生える）。
- とういはっちゃきい tuihattakii [動] 取り逃がす。㊤いんぬ ～（犬を取り逃がす）。
- とういばっぱいい tuibappaii [動] 取り違える。とういちがいいとも。㊤いんぴちいとうくりゆんぬ ～（鉛筆とクレヨンを取り違える）。
- とういみ tuimi [名] 鳥目。夜盲症。夜になると目が見えなくなる眼の病気。
- とういむてい tuimuti [名] 取り分。取り前。㊤っぶあが とういむてー くさき（君の取り分はこれだけだ）。
- とういむどうしい tuimudusi [動] 取り戻す。再び自分のものとする。㊤やーゆ ～（家を取り戻す）。
- とうう tuu [動] 飛ぶ。空中を移動する。㊤とういぬ ていんぬ ～（鳥が空を飛ぶ）。

とうう tuu [動] 問う。尋ねる。分からないことを人に質問する。㊤ どうしいぬやーゆ
とういー いふう (友達の家を尋ねて行く)。

とうー tu: [名] 十。九の次の数字。ひていちい (一つ) ふうたーちい (二つ) みー
ちい (三つ) ゆーちい (四つ) いちいちい (五つ) んーちい (六つ) ななちい
(七つ) やーちい (八つ) くくぬちい (九つ) とぅー (十) と数える。

とうー tu: [名] 沖。深海。㊤ とぅーんかい いでいい (沖に出る)。

どうー du: [名] ① 胴。体。ふどうー (大きな体)。どうーながびとう (背の高い人)。㊤
どうーぬ がばーかん (体が大きい)。② 自分。ならがどうー (自分自身)。㊤ どうひー
あっす (自分でやれ)。

とうーい tui [名] 灯籠。ランプ。石油を燃やして光を得るもの。とうーいぬしん (ラン
プの芯)。とうーいぬふや (ランプの火屋)。㊤ とぅーいゆ ちいきい (ランプを点け
る)。

とうーい tui [名] 通り。すでに理解されている内容と同じ状態であること。あいとうー
い (言う通り)。あしいとうーい (為る通り)。

とうーい tui [動] 通る。ある地点を過ぎて行く。㊤ ばが まいゆ とぅーりー はい
(ぼくの前を通って行く)。

どうーかうかん du:kaukag [形] 体が痒い。㊤ どうーかうかいば んびゃーいん (体が痒
くて我慢できない)。

どうーかってい du:katti [名] 自分勝手。迷惑など考えずに自分に都合がいいように行動
すること。どうーかっていなむぬ (自分勝手な者)。どうーかっていなびとう (自分勝
手な人)。㊤ どうーかってやー ひーや どうっさ ちゅっふあいん (自分勝手では友
達はつくれない)。

どうーがるかん du:garukag [形] 体が軽い。どうーがるびとう (体が軽い人)。㊤ やいび
とうー ~ (痩せた人は体が軽い)。

どうーがるびとう dugarubitu [名] 体の軽い人。㊤ かでいふうちいんな どうーがるび
とうー とうびどう はい (台風には体の軽い人は飛んで行く)。

とうーかん tu:kag [形] 遠い。間の隔たりが大きい。とうーやー (遠い家)。とうーどう
くま (遠い所)。㊤ うちいなーや みゃーくからー ~ (沖縄は宮古からは遠い)。

どうーぐりかん du:gurikag [形] 心苦しい。きまりが悪い。㊤ どうーぐりかいば くまん
な うらいん (きまりが悪くてここには居られない)。

とうーしい tu:sī [動] 通す。通るようにする。㊤ はいぬ みーゆ ~ (針の穴を通す)。

とうーちいき tu:tsīki [名] 言いつけ。命令。㊤ ならーしいまい ~まい ひらいん (教
えることも命令することもできない)。

とうーちいきい tu:tsīkii [動] 命令する。言いつける。㊤ ゆなかー ふかんかい い

でいーなていー ～（夜は外に出るなど命令する）。

とうーどうくま tu:dukuma [名] 遠い所。㊦～んかい あすーが いふうな（遠い所へ遊びに行くな）。

どうーながびとう du:nagabitu [名] 背の高い人。やぐみどうーながびとう（大変背の高い人）。

どうーひぎゃうかん du:çigjaukaŋ [形] 体がくすぐったい。

どうーぶに du:buni [名] 体の骨。㊦～ぬ やんかん（体の骨が痛い）。

とうーまーい tu:mai [名] 遠回り。遠い道を回って行くこと。㊦とうーまーいや ひーいちい（遠回りで行く）。

どうーまーい du:mai [名] 胴体。胴回り。胴の周囲の長さ。㊦～ぬ ながかん（胴回りが長い）。

とうーみ tu:mi [名] 遠見。小高い所から遠くを見ること。とうーみだい（遠見台）。

とうーみ tu:mi [名] 遠目。遠視眼。ちかみ（近目）の対。

とうーみだい tu:midai [名] 遠見台。遠見するための小高い所。㊦～ん ぬーりー いんぬ みい（遠見台に上がって海を見る）。

とうーやー tu:ja: [名] 遠い家。遠くにある家。ちいかやー（近い家）の対。㊦かいがやーや とうーやーやいば、きゅーんな ちいかん（彼の家は遠い家だから、今日中には着かない）。

どうーやしいかん du:jasikaŋ [形] たやすい。やりやすい。どうーやしいむぬがま（たやすい事）。やぐみぬどうーやしいむぬ（大変たやすい事）。㊦しきんな どうーやしいむぬどう あたい（テストはたやすかった）。

どうーやばかん du:japakaŋ [形] 体が柔らかい。体の節々がよく曲がる。どうーやばむぬ（体が柔らかい者）。どうーやばびとう（体が柔らかい人）。

どうーやばびとう du:japabitu [名] 体が柔らかい人。㊦どうーやばびとうー たいすーぬ しんしーんどう ない（体が柔らかい人は体操の先生になる）。

どうーやばむぬ du:japamunu [名] 体が柔らかい者。

どうーやんかん du:jagkaŋ [形] 体が痛い。㊦ひーまがまーしい ～（一日中体が痛い）。

どうーゆーかん du:ju:kaŋ [形] 体が弱い。体力が弱い。どうーゆーっふあ（体が弱い子供）。㊦んまりふうたきなー ～（生まれてすぐは体が弱い）。

どうーゆーっふあ du:ju:fɸa [名] 体が弱い子供。㊦どうーゆーっふあやいば まさがんていー みばかり（体が弱い子供だから、ちゃんと育てなさい）。

とうーんちい tu:ntsī [名] 遠道。遠い道のり。㊦とうーんかいぬ んっちゃ やぐみぬ ～（中国への道は大変な遠い道のりだ）。

どうーんぶかん du:mbukaŋ [形] 体が重い。どうーんぶびとう（体が重い人）。㊦しいま

とうりゃー ～（相撲取りは体が重い）。

どうんぶびとう du:mbubitu [名] 体の重い人。体重の多い人。

とうか tuka [助] とか。並立助詞。思いつくままに例を列挙することを表す。㊤いんとう
か まゆとうかぬどう いっぱい うい（犬とか猫とかがたくさんいる）。

とうが tuga [名] 科。非難。ひとうぬとうが（人の非難）。

とうかい tukai [名] 都会。人口の多いにぎやかな所。文化の中心地。いなか（田舎）の
対。とうかいなり（都会慣れ）。とうかいぬひと（都会の人）。㊤～や ぐらしいぐーむ
ぬ（都会は暮らしにくい）。

とうがい tugai [名] とがっていること。またその物。とうがいむぬ（とがったもの）。㊤
～ていぬ むぬんかいや きーゆ ちいきる（とがったものには気をつけろ）。

とうがい tugai [動] とがる。先が鋭く細くなる。㊤いんぴちいぬ しんぬ ～（鉛筆の
芯がとがる）。

とうかいなり tukainari [名] 都会慣れ。垢抜けすること。いなかなり（田舎慣れ）の対。
㊤～ひー あばらぎん なりー うい（都会慣れして美しくなっている）。

とうかしい tukasī [動] 溶かす。固まっていたものを液状にする。㊤かにゅー ～（金属
を溶かす）。

とうがみ tugami [名] とがめ。過失や罪を責めること。

とうがみい tugamii [動] とがめる。過失や罪を取り立てて責める。㊤ぬしいどうー ～
（泥棒をとがめる）。

とうがらしい tugarasī [動] とがらす。とがるようにする。先が鋭く細くなるようにする。
㊤うぎんぬ とうぎー ～（鋸を研いでとがるようにする）。

とうき tuki [名] 時。①一昼夜を区分したもの。②ある範囲に渡る間。ばかかいとうき
（若い時）。③流れの一点。たうりたいとうき（倒れた時）。

とうきー tukī: [名] 時計。時間を計る器械。㊤つぶあが とうきーや なんじやいば（君
の時計は何時だ）。

とうきい tukii [動] 溶ける。固まっていたものが液状になる。㊤くーりぬ ～（氷が溶け
る）。

とうく tuku [名] 得。利益。もうけ。とうくあしい（得する）。

とうく tuku [名] 徳。人を救済する善行。とうくぬあいひとう（徳のある人）。㊤とう
くー ちいん（徳を積む）。

とうく tuku [名] 床。①寝床。㊤とうくー とうい（床を取る）。②床の間。花や置物を
飾る座敷の上座にある所。㊤とうくん はなう かざい（床の間に花を飾る）。

どうく duku [名] 毒。①飲むと健康や生命に害になるもの。②そのもののためにならな
いもの。みーぬぐうく（目の毒）。

とうくばら tukubara [名] 床柱。床の間にある柱。たきぬとうくばら（竹製の床柱）。

とうくま tukuma [名] 所。①場所。じゃうとうくま（いい所）。やなとうくま（悪い所）。

②場所を数える単位。ひとつ～（一所）。ふうた～（二所）。

とうくる tukuru [名] 所。①場所。②場所を数える単位。

とうくるがん tukurugan [名] 所神。神の一種。

とうくるどうくる tukurudukuru [名] 所々。あちこち。方々。

とうしい tusi [名] 年。年齢。んまりとうしい（生まれ年）。くとうしい（今年）。たちい
とうしい（辰年）。㊤とっす とうい（年を取る）。

とうしい tusi [名] 砥石。刃物を研ぐ石。㊤とうしいひー いあらう とうじい（砥石で
鎌を研ぐ）。

どうしい dusi [名] 同志。友達。同年の友達。年齢に関係しない友達があぐと言う。じゃ
うどうしい（いい友達）。やなどうしい（悪い友達）。どうしいんみ（友達たち）。㊤～
とう あすう（友達と遊ぶ）。

どうしい dusi [名] どす。短刀。

とうじい tudzi [名] 妻。配偶者としての女性の方。とうじいぶとう（夫婦）。とうじいっ
ふあ（妻子）。とうじいとうしゅーとう（妻と姑）。とうじいとうみ（妻を娶ること）。
㊤とうっじゅ さーりー ふうう（妻をつれて来る）。

とうじい tudzi [動] 研ぐ。砥石などで刃物が切れるようにする。㊤いあらう ～（鎌を
研ぐ）。まいゆ ～（米を研ぐ）。

とうしいがカーじい tusigaka:dzi [連] 毎年。とうしいがカーじいぬくとう（毎年のこと）。
㊤～ん かでいふうちいぬ ふうう（毎年台風が来る）。

とうしぐる tufiguru [名]（新）年頃。何らかの観点から見た大体の年令。っさぎあしい
とうしぐる（結婚する年頃）。

とうじいっふあ tudziffa [名] 妻子。妻と子。㊤とうじいっふあう ちいかなう（妻子を
養う）。

とうしいぬくー tusinuku: [名] 年の功。年をとって多くの経験を積むこと。またその功
徳のこと。

とうしいぬゆー tusinuju: [名] 大晦日の夜。一年の最後の夜。

とうじいぶとう tudzibutu [名] 夫婦。結婚したて公認された一組の男女。みゅーとうと
も言う。㊤～ん ない（夫婦になる）。

とうじいまい tudzimai [名] 戸締り。盗難予防のため戸を厳重にすること。㊤～ゆ あ
しい（戸締りをする）。

とうじいみい tudzimii [動] ①なおす。終う。㊤だーうゆ ～（道具を終う）。②締めく
くる。完成する。

とうだな tudana [名] 戸棚。物を入れる家具の一つ。㊤～んかい むぬー いりい (戸棚に物を入れる)。

とうたん tutag [名] トタン。薄い鉄板に亜鉛をめっきした金属。とうたんやー (トタン葺きの家)。とうたんがに (トタンの金属)。

とうちいじい tutsīdzī [動] 嫁ぐ。嫁に行く。㊤がばーやーんかい ～ (大きな家に嫁ぐ)。

とうつぶあ tuvva [名] 台所。食事を調理する所。㊤～ん うまっちゅ むーしい (台所で火を燃やす)。

とうどうきい tudukii [動] 届ける。相手の手元まで行くようにする。とうどうきむぬ (届け物)。㊤しゅむっちゅ ～ (書物を届ける)。

とうとうしい tutusi [名] 十年。㊤んみゃ とうとうしい なりーどう うい (もう十年経っている)。

とうどうきむぬ tudukimunu [名] 届け物。

とうどうちい tudutsī [動] 届く。相手の手元まで移動する。㊤ていがみぬ ～ (手紙が届く)。

とうどうまい tudumai [動] (新) 止まる。その場所でしばらく動かないでいる。㊤たびさきん とうどうまりー うい (旅先で止まっている)。

とうどうみい tudumii [動] 止める。移動しようとするものを動かないようにする。㊤はらっていー ういひとうー ～ (帰ろうとする人を止める)。

とうどうるちい tudurutsī [動] 轟く。音が遠くまで響く。㊤なーぬ ～ (名前が轟く)。

とうない tunai [名] 隣り。一番近い位置。とうないぬやー (隣りの家)。とうないびとう (隣り人)。やーどうない (家隣り)。㊤～んかい いちい (隣りに行く)。

とうないびとう tunaibitu [名] 隣り人。一番近くに住む者。㊤とうないびとうー たじいにい (隣り人を訪ねる)。

とうないむら tunaimura [名] 隣り村。一番近くの集落。

とうぬう tunuu [動] 跳ぶ。跳び上がる。とうぬじいとも言う。㊤うどうるきー ～ (驚いて跳び上がる)。

とうぬか tunuka [名] 卵。鳥・魚などの雌が産む丸い形をしたもの。とういぬとうぬか (鳥の卵)。いうぬとうぬか (魚の卵)。㊤～う ばい (卵を割る)。

とうばしい tubasī [動] 飛ばす。空中を移動するようにする。㊤ひこーきゅー ～ (飛行機を飛ばす)。

とうばちい tupatsī [動] 唾を吐く。㊤ちいっちゅ ～ (唾を吐く)。

とうびくん tubikug [動] 飛び込む。勢いをつけて何かの中へ入って行く。㊤みじいんかい ～ (水に飛び込む)。

とうびゃがい tubjagai [動] 飛び上がる。跳び上がる。㊤かでいひー ふきぬ ～ (風で

ゴミが飛び上がる)。

とうびゅー tubju: [名] (魚) 飛び魚。空中を飛ぶ青銀色の海産魚。トビウオ科。㊤～ぬ
とうう (飛び魚が飛ぶ)。

とうまい tumai [動] 止まる。移動していたものがそこで動かなくなる。宿泊する。㊤ば
しいぬ ていりゅーしょん ～ (バスが停留所に止まる)。どうしいぬ ～ (水道の水
を止める)。どうっす やーん ～ (友達を家に泊める)。

どうまつぶいい dumavvii [動] 間違える。今までやっていた事などが分からなくなる。㊤
どうまつぶいいー さんみんぬ ひらいん (前後が分からなくなり計算ができない)。

とうみい tumii [動] 止める。移動していたものを動かなくする。泊める。㊤しいいどー
ぬ みっじゅ ～ (水道の水を止める)。どうっす やーん ～ (友達を家に泊める)。

とうみい tumii [動] 探す。見つけようとしてあちらこちら動き回る。拾う。㊤でいんぬ
～ (金を拾う)。

とうみむぬ tumimunu [名] 探し物。㊤とうみむぬー なう (探し物は何だ)。

とうむ tumu [名] 鰭。船の後方。船尾。ふうにぬ～ (船の鰭)。

とうむ tumu [名] 伴。従者。供。うとうむ (お伴)。とうむーあしい (伴する)。

とうむい tumui [名] (地) 友利。宮古城辺町の東南に位置する。津波で古いむとうじいま
(元の集落)を失い、現在は海岸から上の方に集落がある。

とうむーしい tumu:sī [動] お伴する。お盆などで先祖の霊を家に迎える。㊤かんぬ ～
(神をお伴する)。

とうら tura [名] (動) 虎。ネコ科でアジア特産の猛獣。

とうら tura [名] 寅。十二支の第三。東北東の方向、時間では午前三時から二時間。

どうら dura [名] 銅鑼。ばちで打って鳴らす円板状の楽器。どうらがにとも言う。

どうらがに duragani [名] 銅鑼。どうらとも。

どうらぐい duragui [名] だら声。太く濁った声。㊤～や ちいちいぐりかん (だら声は
聞きにくい)。

とうらしい turasī [動] 取らせる。手に入れさせる。㊤むぬー ～ (物を取らせる)。

とうり turi [名] 風。風がなく波が穏やかになること。あさどうり (朝風)。ゆーどうり
(夕風)。

とうりい turii [動] 風ぐ。風がやみ波が穏やかになる。㊤かでいぬ ゆーりー とうりー
ふうう (風が弱まって風いで来る)。

とうりばい turibai [名] ぼんやりすること。㊤～や ひー なうまい ふん (ぼんやりし
て何もしない)。

とうりばりや turibarja [名] ぼんやりする人。

どうる duru [名] 泥。物をよごすような土。んたどうる (土泥)。っしゃなどうる (汚な

い泥)。びーたどうる（不潔な泥）。なびーどうる（滑っこい泥）。

どうるたー duruta: [名] 泥田。泥になった田。

どうるだりかん durudarikag [形] 泥だらけである。どうるだりちいん（泥だらけの着物）。

どうるだりんちい（泥んこ道）。㊦あみふうーんな んっちゃ ～（雨降りには道は泥だらけである）。

とうるとうる turuturu（擬態）とろとろ。うつらうつら。㊦ひーまー あちいかいば ～ていー あしい（昼間は暑いのでうつらうつらする）。

どうるどうる duruduru（擬態）どろどろ。泥のように柔らかい状態。㊦しいーっす ～ていー にい（肉をどろどろと煮る）。

とうるな turuna [名]（植）不断草。アカザ科の一年草。中国を経て日本に渡り野菜として栽培される。兎のえさにも利用する。

どうるはじい duruhadzī [名] 泥足。泥で汚れた足。

とうるみちい turumitsī [動] うつらうつらする。㊦きーぬ かぎん とうるみきー うい（木の影でうつらうつらしている）。

どうるみじい durumidzī [名] 泥水。泥で濁った水。

どうるんた durunta [名] 泥土。

どうるんたう duruntau [名] 土いじり。土遊び。㊦～や ひー なうまい ふん（土遊びして何もしない）。

どうるんちい duruntsī [名] 泥道。雨が降るとぬかるみになるような道。㊦どうるんっちゃ あいちいぐりかん（泥道は歩きにくい）。

どうん dug [動] 拳で突く。㊦んにゅー ～（胸を拳で突く）。

とうんから tuḡkara [名] ともがら。同性の生徒同志が友人の家に集まって泊まること。とうんからあぐ（一緒に寝る友人）。とうんからやー（友人と寝る家）。

とうんからあぐ。tuḡkaraagu [名] 一緒に寝る同性の友人。5～6人のグループ。

とうんからやー tuḡkaraja: [名] 同性の友人同志が集まって寝る家。

とうんでい tundi [名] 冬至。二四節の一つ。とうんでいさうがちい（冬至の時に行なう小正月）。

とうんでいい tundii [動] 突き出る。㊦やーぬはなから きーぬ ～（屋根から木が突き出る）。

とうんでいさうがちい tundisauḡatsī [名] 冬至の時に行なう小正月。

とうんびゃん tumbjaḡ [名]（植）竜舌蘭。細長く厚い葉を持つ常緑多年草。ヒガンバナ科。筏を作る材料になる。

とうんまーい tumma: [動] 引き返す。元の所へ戻る。㊦とうんまーりー ふうう（引き返して来る）。

と

とー to: [副] もうよい。これでいい。よし。㊦～ んみゃ あしいな（よし、もう為るな）。

どー do: [感] どうどう。牛馬を制止する時に用いる語。どーどー（どうどう）。

どー do: [助] ぞ。終助詞。体言、用言について強調の意味を表す。㊦ばが かちいんどー（ぼくが書くぞ）。

どーい doi: [助] だぞ。終助詞。訴え呼びかけの時に用いる語。㊦きゅーや かでいふうちいどーい（今日は台風だぞ）。

とーだい to:dai [名] (新) 燈台。岬や港口などにあり、光を出して船に航路を教えるもの。

どーり do:ri [名] (新) 道理。世の中で正しいと認められている行動の筋道。むぬぬどーり（物の道理）。

とんとん tontog (擬声) トントン。動悸などの音。㊦～ていー ちいくいゆ ったちい（トントンと机をたたく）。

どんどん dondog (擬声) ドンドン。太鼓などをたたく音。㊦たいくー ～ていー うちい（太鼓をドンドンと打つ）。

どんみかしい dommikasi [動] 激しくドンドン音をさせる。㊦やどうー ～（戸をドンドン音をさせる）。

な

な na [助] な。動詞および使役の助動詞の連体形について禁止の意味を表す。㊦まちいがいいいーゆ かちいな（間違った字を書くな）。うっとうんな かかしいな（弟には書かせるな）。終助詞。

な na [助] か。否定や肯定を尋ねる終助詞。㊦っぶあー いかんな（君は行かないか）。かいが ゆらびー うい ひとつー ばんな（彼が呼んでいる人はほかか）。

なー na: [名] 名。名前。ひとつぬなー（人の名）。やーぬなー（家の名、童名）。かぎなー（美しい名）。じゃうなー（良い名）。あだなー（あだ名）。なーちいき（名を付けること）。㊦なーゆ ゆらう（名前を呼ぶ）。

なー na: [名] 縄。わらなどの繊維をより合わせてつくった太いひも。んな（綱）よりは細い。かやなー（かやで縛った縄。砂糖黍などを縛る時用いる）。あだなしいなー（阿檀の気根で縛った縄。下駄のひもなどに使う）。はななー（凧が上がるように角度をつけたひも）。㊦なーゆ なう（縄を縛う）。

なー na: [名] 菜。菜っ葉。葉を食する野菜。

-なー -na: [接尾] ①ずつ。程。数詞について～ずつの意味を表す。ひていちいなー（一つずつ）。ふうたちいなー（二つずつ）。みーちいなー（三つずつ）。ゆーちいなー（四

つずつ)。いちいちいなー (五つずつ)。②体言について副詞となる。㊤うさきーな
 とういな (そんなに取るな)。あんしーなー あしいな (そんなに為るな)。

なーすくー nāsuku: [名] 縄の帯。縄を利用した帯。

なーちいき natsiki [名] 名付け。名前を付けること。昔はむい じゃうき (竹で編んだ
 皿の形をした大きな容器) に名前を書いた紙を入れ、それを振った時落ちた紙の名前を
 付けた。

なーどう na:du [名] 自分達。㊤なーどうひー あっす (自分達でやれ)。

ない nai [名] 地震。火山の活動などで起こる地表の揺れ。ちゅーない (強い地震)。ゆー
 ない (弱い地震)。㊤ないぬ ゆしい (地震が寄せる)。

ない nai [動] 成る。①実る。実ができる。㊤ないぬ ～ (実が成る)。②ある状態や時刻
 に達する。㊤ゆさらびん ～ (夕方になる)。③できる。㊤っぶあんな ならん (君に
 はできない)。

ない nai [動] 鳴る。楽器などの音が出る。腕が鳴るような表現はない。㊤かにぬ ～
 (鐘が鳴る)。

ないい naii [動] 萎える。草などが元気がなくなる。㊤っさぬ ～ (草が萎える)。

ないかー naika: (地) 成川。平良市街地から北へ3 km程行った所にある集落。言葉は平良
 方言に近い。主に農業を営む。

ないぎゃ naigja [名] 足の不自由な人。ないじいびとうとも言う。

ないじい naidzī [動] なえぐ。びっこをひく。

ないじいびとう naidzībitu [名] なえぐ人。足の不自由な人。

ないっさ naissa [名] 萎え草。萎えた草。㊤～う かりー っしる (萎えた草を刈って捨
 てなさい)。

なう nau [名] 何。不定称の指示代名詞。なうばい いかばい (どの様に)。㊤～ゆちゅ
 ん っさん (何にも知らない)。

なう nau [動] 綯う。わらなどをより合わせて一本の太いものにする。㊤んなう ～ (網
 を綯う)。

なうい naui [動] 治る。病気がよくなる。㊤やんぬ ～ (病気が治る)。

なうい naui [動] 直る。悪い状態がよくなる。㊤ふうしぬ ～ (癖が直る)。

なうがら naugara [連] 何やら。㊤～う むちー くー (何やらを持って来い)。

なうさ nausa [名] 細かい石ころ。道を舗装する時用いる。

なうしい nausī [動] 治す。病気を健康な状態にする。㊤やんぬ ～ (病気を治す)。

なうしい nausī [動] 直す。悪い状態をよくする。㊤きかいゆ ～ (機械を直す)。

なうぬばー naunuba: [連] どういう訳。㊤なうぬばーや ひーどう くーんが (どうい
 う訳で来ないか)。

なうばい naubai [副] どんなに。㊤～ ふばん ならんむぬー ならん（どんなにやってもできないものはできない）。

なうやらん naujarag [副] 何でも。㊤～ むちー くー（何でも持って来い）。

なか naka [名] 中。内部。中央。やーぬなか（家の中）。なかつみ（中身）。㊤～んかい はない（中に入る）。

なか naka [名] 仲。人と人との関係。じゃうなか（良い仲）。ふうたーいがなか（二人の仲）。㊤～ぬ じゃうふう ない（仲が良くなる）。

ながあーぐ nagaa:gu [名] 長い歌。まるあーぐの対。

ながあすー nagaasu: [名] 長遊び。長く遊ぶこと。㊤～や ひー んじゃうどう まーりー うたいが（長遊びしてどこを歩き回っていたんだ）。

ながあみ nagaami [名] 長雨。梅雨。ながあみぬじき（梅雨の時期）。㊤～ぬ っふいー しかまぬ ひらいん（梅雨が降って仕事ができない）。

ながいちい nagaitsi [名] 長息。息を長く止めること。やぐみながいちい（大変な長息）。

なかういび nakauibi [名] 中指。五本の指の真ん中の指。うやういび（親指）。ひとうさ しいういび（人指し指）。なかういび（中指）。っすいういび（薬指）。くゆび（小指）などと言う。

ながうっす nagaussu [名] 後頭部のとがった人。

なががい nakagai [名] 仲買。

ながぐちい nagagutsi [名] 長靴。

ながかん nagakan [形] 長い。ある点からある点までの間が遠い。ながういび（長い指）。

ながでいー（長い手）。どうーながんまり（胴の長い者）。㊤あかぬ ～（髪が長い）。

ながさ nagasa [名] 長さ。長いこと。㊤～う はかい（長さを計る）。文を終止することもある。あがい やぐみ ながさ（ああ 大変長い）。

ながさなじい nagasanadzī [名] 長いふんどし。まるさなじいの対。漁師達は鯨対策として普通長いふんどしをする。

なかしい nakasi [動] 泣かす。泣くようにする。㊤っふあう ～（子供を泣かす）。

ながしい nagasi [動] 流す。流れるようにする。㊤みっじゅ ～（水を流す）。ながらしいとも言ふ。

ながじいん nagadzij [名] 長い着物。昔は畑仕事をする時には脛の半分程度の着物を着ていたから、ながじいんは踝までの長さのものを指す。

ながしくん nagašiku [動] 流し込む。水などを空いた所へ入れるようにする。㊤せめんぬ ～（セメントを流し込む）。

ながじばん nagadziban [名] 長襦袢。和服の時着る長い下着。

なかじる nakadziru [名] 中弦。三味線の真ん中の弦。

ながすくら nagasukura [名] 長い脛。

ながすでい nagasudi [名] 長袖。袖の長い衣服。

なかじゃ nakadza [名] 中座。いちばんじゃー（一番座）とさんばんじゃー（三番座）の間の部屋。

ながじゃー nagadza: [名] 長座。長居。長時間他人の家などに居ること。

なかたがい nakatagai [名] 仲たがい。仲が悪くなること。

なかだち nakadatji [名] (新) 仲立。間に立って両者を関係づけたりする。

ながたび nagatabi [名] 長旅。長時間の旅。㊤ながたびゃー くーむぬ（長旅はきつい）。

なかちい nakatsi [名] 陰核。

ながちいじいき nagatsidziki [名] 長続き。仕事などが目標を達成するまで行われること。

㊤かいが しいかまー ながちいじいきゃー ふん（彼の仕事は長続きはしない）。

ながちび nagatjibi [名] ①長い尻。尻が長いこと。②長居。他人の家などに長く居ること。

なかてい nakati [名] 中ぐらいのもの。なかていぬむぬとも言う。

ながでいー nagadi: [名] 長い手。手の長いこと。ながでいーびとう（手の長い人）。まるでいー（短い手）の対。

ながでいーかん nagadi:kan [形] 手が長い。まるでいーかん（手が短い）の対。㊤かりゃー ～（彼は手が長い）。

ながちゃ nagatja [名] 翌日。次の日。うんぬながちゃ（その次の日）。

なかなうい nakanaui [名] 仲直り。けんかをやめて親しくなること。㊤～ゆ あしい（仲直りをする）。

なかなか nakanaka [副] なかなか。そのものの状態などが予期していた以上であることを表す。㊤むちいかしいかいば ～ ひらいん（難しいので、なかなかできない）。

ながながていー naganagati: [副] 長々と。いかにも時間などが長いような状態。㊤～はなっす あしい（長々と話をする）。

ながなちい naganatsi [名] 長く鳴くこと。㊤とういぬ ながなっちゃ ひー にっぶあいん（鶏の長鳴きで眠れない）。

なかすとう nakasutu [名] 中外。中と外。㊤なかすとうー みーる（中も外も見なさい）。

ながに nagani [名] 背中。くさんびとも言う。ながにぶに（背中の骨）。㊤～ぬどう やん（背中が痛む）。

ながにぶに naganibuni [名] 背中の骨。背骨。脊柱を組み立てている骨。

ながぬどう naganudu [名] 長首。長い首。まるぬどう（短い首）の対。㊤ちいるー ～（鶴は長い首だ）。

ながにゅー naganju: [名] 長く眠ること。㊤～や ひー まにあーん（長く眠って間に合わない）。

ながはじい nagahadzī [名] 長足。長い足。まるはじい（短い足）の対。ながはじいびとう（足の長い人）。

ながばたらちい nagabataratsī [名] 長く働くこと。㊤んぬー ながばたらっちゃ ひーきゅーや くーかん（昨日は長く働いて、今日はきつい）。

ながばなしい nagabanasī [名] 長話。長い話。㊤ながばなっさ うむっし（長話は面白い）。

ながはま nagahama [名]（地）長浜。伊良部町長浜。伊良部島の南西にある。佐和田の東隣りの集落。

なかばら nakabara [名] 中柱。中心になる柱。

なかび nakabi [名] 中日。祭りなどで真ん中に当たる日。

ながびかしい nagabikasī [動] 長びかせる。延引させる。㊤まーぬ きじゃいゆ ～な（あまり祭りを延引させるな）。

ながびちい nagabitsī [動] 長引く。延引する。予定した時間以上に事が続く。

ながぶたい nagabutai [名] 長額。長い額。額が長いこと。ながぶたいびとう（長額の人）。

ながぶい nagabui [名] 長降り。長雨。㊤～や ひー いじゃまい いかいん（長降りでもどこも行けない）。

ながぶい nagabui [名] 長吠え。犬が声を長く引いて吠えること。不吉な前兆とされている。

なかみ nakami [名] ①中味。ものの中にあるもの。とうぬかぬー（卵の中味、黄味）。②豚などの臓物。なかみじる（豚の臓物の汁）。

ながみ nagami [名] 眺め。注意して見るに値するような景色などのこと。じゃうー（いい眺め）。かぎー（美しい眺め）。

ながみー nagami: [名] 長目。長い目。細く長い目のこと。ながみーびとう（長い目の人）。

ながみい nagamii [動] 眺める。その物だけを注意して見る。㊤ゆかーまぬ やまなぎゅー ～（遠くの山などを眺める）。

ながみい nagamii [動]（新）長める。長くする。㊤ちいんぬ すすー ～（着物の裾を長くする）。

なかみぬしーむぬ nakaminufi:munu [名] 料理名。豚の臓物の吸物。正月などめでたい日につくる。

ながみはな nagamihana [名] 長い顔。ながみはなびとう（長い顔の人）。まーくみはな（丸顔）の対。

ながむっす nagamussu [名] 長い筵。まるむっす（短い筵）の対。

ながむぬ nagamunu [名] ①長いもの。②蛇の忌詞。

ながやー nagaja: [名] 長屋。細長く造った一棟の家。

ながやん nagajan [名] 長病み。長く患うこと。

ながゆー nagaju: [名] 長世。長い世。長く続いた世。しょーわぬ〜（昭和の長い世）。

ながゆー nagaju: [名] 長湯。長く入浴すること。〜むぬ（長湯する者）。㊤〜や ひー
まーぶら あしい（長湯をしてめまいがする）。

なかゆくい nakajukui [名] 中憩い。中休み。作業の途中で一服すること。じゅーじゆく
い（十時休み）やさんじゆくい（三時休み）などもある。

ながらしい nagarasī [動] 流す。ながしいとも言う。㊤みっじゅ んじゅんかい 〜（水
を溝に流す）。

ながり nagari [名] 流れ。液体などが移動すること。がーらぬ〜（川の流れ）。くるまぬ
〜（車の流れ）。ひとうぬ〜（人の流れ）。すーぬ〜（潮の流れ）。

ながりい nagarii [動] 流れる。液体などが低い方へ移動する。㊤みじいぬ 〜（水が流
れる）。

ながりぶしい nagaribusī [名] 流れ星。流星。

ながりみじい nagarimidzī [名] 流れ水。流れている水。㊤ながりみっじゅ ていーひー
すくう（流れ水を手で掬う）。

ながりむぬ nagarimunu [名] 流れている物。川や浜辺に流れ寄る物。昔は浜に椰子の実
がよく流れて来た。

ながんちい nagantsī [名] 長い道。遠い道。㊤ながんっちゅ あいきー だりーにゃーん
（長い道を歩いて疲れてしまった）。

ながんぬちい nagannutsī [名] 長生き。長命。長く生きること。ながんぬちいびとう（長
寿の人）。まるんぬちい（短命）の対。長寿の人は尊ばれる。

-なぎ -nagi [接尾] 辺り。場所を示す指示代名詞などにつき、それに近い所を表す。くま
〜（この辺り）。かま〜（あそこ辺り）。っさら〜（平良辺り）。

なぎい nagii [動] 投げる。手でつかんで遠くへ移動させる。ていうとも言う。㊤いっす
〜（石を投げる）。

なぎくん nagikug [動] 投げ込む。むぞうさにどこかの中に入るようにする。

なぎしいていい nagisīitii [動] 投げ捨てる。投げるようにして捨てる。

なぎちらしい nagitjirasī [動] 投げ散らす。ものを投げるようにして散乱させる。

なぎとうばしい nagitubasī [動] 投げ飛ばす。勢いをつけて投げて飛ばす。㊤じゅーどー
や ひー 〜（柔道で投げ飛ばす）。

なぎなた naginata [名]（新）薙刀。長い柄の先にそり返った刃をつけた武器。

なぐさみ nagusami [名]（新）慰め。慰安。

なぐさみい nagusamii [動]（新）慰める。言葉をかけたりして悲しみや寂しさを一時的に
忘れさせる。㊤かまらしいびとうー 〜（悲しい人を慰める）。

なさき nasaki [名] 情け。同情。困っている人に同情して援助する親切心。ひとうぬ～
(人の情け)。

なさしい nasasī [動] 生ませる。㊦っふあう ～ (子供を生ませる)。

なしい nasī [名] (植) なす。ナス科。なしいびとも言う。

なしい nasī [動] 産む。分娩する。～っふあ (産んだ子供)。っふあ～ (子供を産むこと)。

なじい nadzī [動] 薙ぐ。鎌などを勢いよく横に振って草などを切る。ぶーじい～ (砂糖
黍を収穫すること)。㊦っさう ～ (草を薙ぐ)。

なしいうや nasīuja [名] 産みの親。㊦くりゃー かいが ～ (この人は彼の生みの親だ)。

なじいき nadzīki [名] 名づけ。命名。呼ぶための名前を与えること。～うや (名づけ親)。

なじいきい nadzīkii [動] 名付ける。呼ぶための名前を与える。㊦なーゆ ～ (名前を名
付ける)。

なしいちいち nasītsītsī [名] 生し月。臨月。子供を生む予定の日。

なしいつちや nasīttja [名] 末っ子。最後に生まれた子供。

なしいつふあ nasīffa [名] 産んだ子供。㊦くりゃー ばが ～ (これはぼくの産んだ子供
だ)。

なしいび nasībi [名] (植) 茄子。ナス科の一年草。なしいとも言う。なが～ (長い茄子)。
まーく～ (丸い茄子)。

なしいやう nasījau [動] 産みそこなう。流産する。～っふあ (産み方が悪かった子供)。

なた nata [名] 鉋。刃が厚く幅が広い刃物。薪を割るのに用いる。

なだ nada [名] 涙。感動や刺激が大きい時に人間の目から出る液体。みーぬなだとも言
う。なだじゅーかん (涙強い)。なだゆーかん (涙もろい)。㊦～う ふうちい (涙を拭
く)。

なだじゅーかん nadadzju:kag [形] 涙強い。涙をなかなか流さない様。なだゆーかん (涙
もろい) の対。

なだみい nadamii [動] (新) なだめる。荒れている気持ちを静める。

なだゆーかん nadajukag [形] 涙弱い。涙もろい。なだゆーびとう (涙もろい人)。

なだらー nadara: [副] (新) なだらか。傾斜が急でない状態。㊦はいゆ ならーていー
ならしい (畑をなだらかにする)。

なちい natsī [名] 夏。春と秋の間に訪れる暑い季節。まなちい (真夏)。なちいじいん
(夏の衣類)。なちいやしいん (夏休み)。なちいむぬ (夏のもの。夏に着る衣服)。

なちい natsī [動] 泣く。鳴く。なちいっちや (泣き虫)。なちいぐい (泣き声)。ながな
ちい (長く泣くこと)。

なちいあかしい natsīakasi [動] 泣き明かす。泣いて夜を明かす。

なちいぐい natsīgui [名] 泣き声。涙声。鳥などの鳴き声。㊦とういぬ ～ぬ あしい

(鳥の鳴き声がする)。

なちいしいがい natsisigai [動] 泣きすぎる。泣きながらすぎる。

なちいじいん natsidzīj [名] 夏着。夏に着る衣服。㊤～ぬ ちいい (夏着を着る)。ふう
ゆじいん (冬もの) の対。

なちいっちゃ natsittja [名] 泣き虫。すぐ泣くこと、ままその人。

なちいっちゃかん natsittjakag [形] すぐ泣くような状態。涙もろい。㊤びきどうんやい
すが なちいっちゃかいば なん (男のくせに涙もろいから困る)。

なちいなちい natsinatsi [副] 泣き泣き。㊤～やんかい はい (泣き泣き家に帰る)。な
ちいなちいていーとも言う。

なちいばらい natsibarai [名] 泣き笑い。泣いたり笑ったりすること。

なちいまーび natsimabi [名] 泣き真似。㊤なちいまーびゅー あしい (泣き真似をする)。

なちいまき natsimaki [名] 夏負け。夏やせ。夏バテ。㊤～ひー むぬー ふぁーいん
(夏バテで食欲がない)。

なちいむぬ natsimunu [名] 夏物。夏着。夏に着る衣服。なちいじいんとも言う。㊤な
ちいんな なちいむぬーどう ちいい (夏には夏着を着る)。

なちいむぬい natsimunui [名] 泣き言。泣きながら話すこと。㊤～ゆ あい (泣き言を言
う)。

なちいやしいん natsijasij [名] (新) 夏休み。夏のある時期学校などが授業を止めること。
㊤あちゃからー ～ (明日からは夏休みだ)。冬休みはふうゆやしいんと言う。

なちゃーら natjara [名] (植) 海人草。紅藻類フジマツモ科。胃薬として用いる。

なな nana [名] 七。六の次の数。なな (七) やー (八) くく (九) とぅー (十)
と数える時使う。また助数詞につくこともできる。ななしいん (七寸)。ななしいじい
(七粒)。ななとうしい (七年)。ななぬひとう (七人)。

ななちい nanatsi [名] 七つ。六の次の数。ななちい (七つ)、やーちい (八つ)、くくぬ
ちい (九つ)、とぅー (十) と続く。ななちいぬさー (七つの差)。ななちいぬとうしい
(七年)。

ななちいぶしい nanatsibusī [名] 七つ星。北斗七星。

ななとうしい nanatusi [名] 七年。一年が七つ重なった年。

なななんか nananajka [名] 死んで49日目の法事。

ななみ nanami [名] (新) 斜め。水平から上下に先端がずれていること。㊤～んかい し
んぬ ひちい (斜めに線を引く)。

なば naba [名] ①垢。㊤～う うとうしい (垢を落とす)。②茸。

なび nabi [名] 鍋。食べ物を煮る時に用いる底の浅い容器。しいるなび (汁鍋)。なびぬ
ふうた (鍋の蓋)。なびぬくー (鍋の繕い)。

なびあさい nabiasai [名] 鍋をあさること。食いしん坊。

なびーかん nabi:kag [形] 滑っこい。なびーんちい (滑っこい道)。㊦あみふうーぬ
んっちゃ ～ (雨降り時の道は滑っこい)。

なびーんちい nabi:ntsī [名] 滑っこい道。㊦なびーんちゃ あいちいぐーかん (滑っこい
道は歩きにくい)。

なびかしい nabikasī [動] (新) 靡かせる。靡くようにする。㊦あかう かでいん ～
(髪を風に靡かせる)。

なびがに nabigani [名] 鍋をつくるのに用いる金属。

なびぐー nabigu: [名] 鍋墨。鍋につく煤。なびぬっふうしいーとも言う。

なびずく nabidzuku [名] 鍋の底。

なびちい nabitsī [動] (新) 靡く。長くて柔らかいものが風などの流れによって横に動く。
㊦ぶーじいぬはーぬ かでいん ～ (砂糖黍の葉が風に靡く)。

なびぬっふうしいー nabinuffusī: [名] 鍋墨。なびぐーとも。

なびひちいむぬ nabiçitsīmunu [名] 鍋を敷くもの。鍋を火から降ろした時にそれを下に
敷くもの。

なびふうた nabifuta [名] 鍋の蓋。

なびぬくー nabinuku: [名] ①鍋などの穴をふさぐこと。②鍋などの穴をふさぐことを業
とする者。

なびゃーら nabja:ra [名] (植) へちま。夏に黄色い花の咲く一年草。実は長く下が太い。
味噌煮にして食する。

なま nama [名] 生、生のもの。加工されていない自然のもの。なまむぬ (生の物)。なま
ぎー (生木)。なまだき (生竹)。㊦～ひー ふあう (生で食べる)。

なまあふうじい namaafudzī [名] 生まくび。㊦なまあふうっじゅ あしい (生あくびをす
る)。

なまい namai [動] 鈍る。刃物が切れなくなる。なまいかたな (鈍った庖丁)。㊦いあら
ぬ ～ (鎌が鈍る)。

なまい namai [動] 止まる。進行中のものがそこで動かなくなる。とうまいとも言う。㊦
ばしいぬ ～ (バスが止まる)。

なまいう namaizu [名] 生魚。生の魚。熱を通してない自然の魚。

なまうす namausu [名] 生糞。

なまがー namaqa: [名] 生皮。はがしたままの加工していない皮。

なまぎー namagi: [名] 生木。枯れていない木。㊦～や むいぐりむぬ (生木は燃えにく
い)。

なまぎい namakii [動] 怠ける。すべきことをしないで時間をむだに過ごす。㊦しいか

まう ふだ ～（仕事をしないで怠ける）。

なまし *namasi* [名] 膾。刺身。魚の肉などを薄く切り生のままで食べるもの。かちゅーぬ～（鰹の刺身）。いかぬ～（烏賊の刺身）。とうびゅーぬ～（飛び魚の刺身）。

なまじい *namadzimi* [名] 生爪。㊤なまじいみゅー はがしい（生爪を剥がす）。

なまじいん *namadzijn* [名] 半死半生。

なまずー *namadzu* [名] 生野菜。熱を通していない自然の野菜。

なまだき *namadaki* [名] 生竹。枯れていない竹。㊤なまだきゅー からしい（生竹を枯らす）。かりだき（枯れ竹）の対。

なまだうふう *namadafu* [名] 生豆腐。揚げ豆腐に対して言う。

なまだん *namadan* [名] 怠け者。するべき事をしないで時間をむだに過ごす人。なまだんびとう（怠け人）。なまだんむぬ（怠け者）。

なまだんかん *namadagkan* [形] 怠ける状態。㊤かりゃー なまだんかいば なん（彼は怠けるからいけない）。

なまだんびとう *namadambitu* [名] 怠け人。怠ける人。

なまだんむぬ *namadammunu* [名] 怠け者。㊤～んな でいんな たまん（怠ける者には金は溜らない）。

なまちー *namatsi* [名] 生血。生きている動物の血。

なまどうぬか *namadunuka* [名] 生卵。鳥がうんだままの熱を通していない卵。ゆでいどうぬか（ゆで卵）の対。生卵を飲むと元気が出ると言われている。

なまにー *namani* [名] 生煮え。半煮え。料理に十分熱が通っていないこと。㊤～ひーやふぁーいん（生煮えでは食べられない）。

なまにゅー *namanju* [名] 生眠。うつらうつら眠ること。

なまばー *namaba* [名] 生菌。生きた動物についている状態の菌。

なまばらい *namabarai* [名] 生笑い。相手からひどい事を言われても意に介さず笑うこと。

なままい *namamai* [名] 生米。熱を通していない米。にーまい（煮た米）の対。㊤～やふぁーいん（生米は食べられない）。

なまみじい *namamidzi* [名] 生水。沸かさずに飲む水のこと。㊤なまみっじゅ めん（生水を飲む）。

なまむぬ *namamunu* [名] 生物。生の物。火を通してない自然の物。

なまらしい *namarasi* [動] 鈍にする。切れなくする。㊤かたなう ～（庖丁を切れなくする）。

なまらしい *namarasi* [動] 止める。進行中のものが動かないようにする。㊤くるまう ～（車を止める）。

なまり *namari* [名] 鉛。青白い色で柔らかく重い金属。釣用の重りに使ったりする。

なまりぶしい namaribusī [名] 鰯の生り節。鰯を蒸して生にした食べ物。

なまんー namag: [名] 生芋。火を通していない芋。

なみ nami [名] 並。普通。なみぬむぬ (並のもの)。

なみい namii [動] 比べる。比較する。比べ合わせる。㊦くいとう かりゅー なみーみーる (これとあれを比べて見ろ)。

ならい narai [名] 習い。習慣。

なら nara [名] 自分。当のその人。ならがどうー (自分自身)。㊦どうーぬ くとうーばー ならひー あっす (自分のことは自分でやりなさい)。

ならーしい nara:sī [名] 教え。①教訓。教えさとすこと。②しきたり。ならわし。㊦んきゃーんからぬ あいぬ ～ (昔からのそういうならわしだ)。

ならーしい nara:sī [動] 教える。相手に知らない事を説明し身につくようにする。㊦しいんぬ ～ (学問を教える)。

ならーしいかた nara:sikata [名] 教え方。教える方法。やな～ (だめな教え方)。じゃう～ (いい教え方)。しーとうぬ～ (生徒の教え方)。㊦しんしーが ならーしいかたーじゃうとー (先生の教え方は上当当だ)。

ならーしいぐりかん nara:sigurikag [形] 教えにくい。教えるのが難しい。やぐみ～ (大変教えにくい)。㊦んなまぬ しーとうー ～ (今時の生徒は教えにくい)。

ならう narau [動] 並ぶ。いくらかのものが秩序を守って規則正しく位置する。㊦きちいぎんていー ～ (きれいに並ぶ)。

ならう narau [動] 習う。相手から知らない事柄を説明して貰い身につくようにする。㊦しんしーから かんじゅー ～ (先生から漢字を習う)。

ならしい narasī [動] 馴らす。馴れるようにする。慣らす。㊦とういゆ ～ (鳥を馴らす)。

ならしい narasī [動] 均す。平らにする。㊦じいーゆ きちいぎん ～ (土地をきれいに均す)。

ならしい narasī [動] 鳴らす。音を出すようにする。㊦ぴーだきゅー ～ (笛を鳴らす)。

ならびい narabii [動] 並べる。規則的に位置するようにする。㊦ちいくいゆ ～ (机を並べる)。

なり nari [名] 慣れ。慣れること。やー～ふか～ (家慣れ外慣れ)。㊦～ていーぬ むぬー うとうるしいむぬ (慣れというのは恐ろしい)。

なりい narii [動] 慣れる。馴れる。㊦いんぬ ひとつんかい ～ (犬が人に馴れる)。

なりすみ narisumi [名] 馴れ初め。男と女が親しくなったきっかけ。うむっしー (面白い馴れ初め)。ひんなー (妙な馴れ初め)。

なん nag [名] 波。風によって揺れ動いた水面が次々と伝わって来る現象。うーなん (大

波)。いみなん (小波)。㊤ぬ ゆしい (波が寄せる)。

なん naŋ [動] なめる。舌でなでるようにする。㊤あいしいけーきゅー ~ (アイスクリーマーをなめる)。

なん- naŋ- [接頭] 何。助教詞につく。なんがちい (何月)。なんだい (何代)。なんしいん (何寸)。なんどう (何度)。なんなん (何男)。なんにち (何日)。なんびやく (何百)。なんじゅー (何十)。なんぎん (何斤)。なんぜん (何千)。なんじゃく (何尺)。なんぼん (何本)。なんさちい (何冊)。

なんあらかん naŋarakag [形] 波が荒い。なんあらどうきや (波が荒い時)。㊤きやーや ~ (今日は波が荒い)。

なんあらどうきや naŋaradukja [名] 波の荒い時。波の荒い日。㊤~んな ふうにゅーぎやー いだはん (波の荒い日には船は出さない)。

なんか naŋka [名] 七日。人が死んでから七日ごとに行なう法事。

なんかでい naŋkadi [名] 波風。波と風。㊤きゅーや ~ぬどう ちゅーかい (今日は波風が強い)。

なんくー naŋku: [名] 南瓜。かぼちゃ。がばー~ (大きな南瓜)。いみ~ (小さな南瓜)。

なんざん naŋsaŋ [名] 難産。出産で胎児がなかなか生まれないこと。㊤~ぬっふあーゅーどう すだちい (難産の子はよく育つ)。

なんじい nandzī [名] 難儀。①苦しみ。なんじいなむぬ (苦しい事)。②煩わしいこと。㊤ひとつぬ やーいっちゃ ~ (人の家に行くのは煩わしい)。なんじいくんじいはなんじいの重言。

なんじゃ nandza [名] 銀。白く光って美しいつやのある金属。㊤~ひー でいんぬちゅふうう (銀で貨幣を作る)。

なんちいちい nantsitsī [名] おこげ。鍋に焦げついている食物。なんちいちいぬかじゃ (おこげの匂い)。

なんちいちいぬかじゃ nantsitsinukadza [連] おこげの匂い。㊤~ぬどう ひー うい (おこげの匂いがしている)。

なんとう nantu [副] どんなに。㊤ばが ~ あいあんまい かりやー ちいかん (ぼくがどんなに言っても彼は聞かない)。

なんばん nambag [名] 南蛮。南洋諸島のこと。

なんばんがさ nambaggasa [名] 南蛮瘡。梅毒。

なんばんがみ nambaggami [名] 南蛮がめ。南蛮から伝わったかめ。

に

にー ni: [名] 荷。荷物。運搬される品物のこと。にーちいん (荷積み)。んぶにー (重い

荷)。がるにー (軽い荷)。㊤～ゆ ちいん (荷を積む)。

にー ni: [名] ①根。普通地下にあって根物体を支えている部分。にむとう (根元)。うだにー (太い根)。いみにー (細い根)。②はれものの根になっている所。ぬぶたぬにー (おできの根)。

にー ni: [名] 子。十二支の第一。今夜十二時頃およびその前後の二時間をさす。方角は北。にぬはぶしい (北極星)。にぬは (子の方向)。

にー ni: [名] 二。一の次の数。いち にー さん しーと数える時用いる。にばん (二番)。にかい (二回)。にどう (二度)。

にい nii [動] 煮る。ものを液体の中に入れて熱する。㊤むぬー ～ (ものを煮る)。

にい nii [動] 練る。こねる。粉のようなものを液体とまぜ合わせる。㊤んたう ～ (土を練る)。

にーあぎ nira:gi [名] 二上げ。三味線の二の糸を本調子より一段高めた調子。

にーか nika [副] 遅く。㊤～がみ しかまう あしい (遅くまで仕事をする)。

にーかいしい nikaisi [動] 煮返す。煮なおす。㊤なまんーぬ ～ (生芋を煮なおす)。

にーぐるま niguruma [名] 荷車。荷を運搬する車。

にーしい nijii [動] 似る。性格や形が同じように見える。㊤っふあぬ うやん ～ (子供が親に似る)。

にーしいざい nisisai [動] 煮過ぎる。㊤むぬー ～ (ご飯を煮過ぎる)。

にーちいみゃ nitsimja [名] 荷を積む者。荷を車などに積む者。

にーちいん nitsig [名] 荷積む。荷を運搬車などに積むこと。㊤～な くーむぬ (荷積みはつらい)。

にーぬかん n:nukag [名] 根神。集落の草分けの家から出た神女。祭りの中心的役割を担う。

にーまい nizmai [名] 煮た米。火を通した米。なまい (生米) の対。

にーんー nigr: [名] 煮た芋。火を通した芋。なまんー (生芋) に対して使う。

にがい nigai [名] 願い。こうありたいと思う事柄。にがいぐとう (願い事)。かんにがい (神願い)。㊤～や かなうどう しい (願いは叶う)。

にがいんま nigaimma [名] 願いを行なう神女。

にがう nigau [動] ①願う。㊤しんしーん ならっていー ～ (先生になろうと願う)。②祈る。㊤かながないんかい ～ (神様に祈る)。

にがちい nigatsi [名] 二月。一月の次の月。いちがちい (一月)、にがちい (二月)、さんがちい (三月)、しがちい (四月)、ぐがちい (五月)、るくがちい (六月)、しがちい (七月)、はちがちい (八月)、くがちい (九月)、じゅーがちい (十月)、じゅーいちがちい (十一月)、じゅーにがちい (十二月) と数える。

にがちいかでいまーい nigatsikadimazi [名] 旧暦の二月頃、急に風向きが変わり天気が悪くなること。その頃は長男には旅をさせない。

にく niku [名] (新) 肉。普通はしいーしいと言う。

にぐー nigu: [名] ①しゃこ貝。目の病気に利くと言われている。②女陰。

にぐい nigui [名] 根。根っこ。

にぐい nigui [名] 濁り。透明にすき通ってないこと。にぐいみじい (濁り水)。

にぐい nigui [動] 濁る。きれいでなくなる。㊤かーぬどう にぐりー うい (井戸が濁っている)。

にくん nikun [動] 煮込む。種々のものを一緒に煮る。また十分に煮る。㊤わーじゅーゆー (豚肉を十分煮る)。

にくん nikun [動] 憎む。人や事をいやだと思ふ。㊤ちいみゅー にくみー ひとうー (罪を憎んで人を憎む)。

にじいくい nidzĩkui [名] 荷造り。物を取りまとめて箱に入れたり縛ったりすること。㊤ふうくー ～や ひー うくい (衣類を荷造りして送る)。

にじいちい nidzĩtsĩ [動] 根付く。移植した草・木が土になれて養分を吸収するようになる。

にしべ nijibe [名] (地) 西辺。平良市字西原のこと。そこの人々は普通にしいむらと呼ぶ。

にしいむら nisĩmura [名] (地) 西村。平良市字西原のこと。平良市街地から北へ約 3 km 行った所にある。にしべとも言う。

にしゃい nijai [名] 二才。青年。高校生から二十代までの男。じゃうぎー (美しい青年)。

にちい nitsĩ [名] 熱。熱さを感じさせるもの。たかー (高い熱)。㊤やみー ～ぬ あがい (病気で熱が上がる)。

ーにち -nitji [接尾] (新) 日。日数を数える助数詞。いちにち (一日) ーにち (二日) さんにち (三日) よにち (四日) ごにち (五日) と数える時用いる。

にちいさまし nitsĩsamaji [名] (新) 熱冷し。解熱剤。

にちいばんぱん nitsĩpampaj [副] 熱が高く上がって体が熱くなる状態。㊤～ なりーくーぎむぬ (熱が高くなってきつそうだ)。

にぬはぶしい ninuhabusĩ [名] 北極星。ほとんど位置の変わらない北極に最も近い星。

にぬは ninuha [名] 子の方向。真北。

ににゅー ninju: [名] 居眠り。横にならないで眠ること。㊤しいかまー ひー ～ゆ あしい (仕事中に居眠りする)。

ににゅーぎー ninju:gi: [名] (植) ギンネム。アメリカ産でマメ科の落葉低木。観賞用に植えられたが、最近はお茶の原料にもなっている。

にばい nibai [動] 食物などが腐れる。㊦まいぬどう にばりー うい（ご飯が腐れている）。

にばいかじゃ nibaikadza [名] 食物などの腐った臭い。㊦～ぬどう ひーうい（食物などの腐った臭いがしている）。

にばん niban [名] ①二番。㊦きょそにゃーや ～（競争は二番だ）。②屋号の一つ。東支部に属する。

にばりい nibarii [動] 食物などが腐れて悪臭を出す。すえる。㊦いうぬどう ～（魚が腐れて悪臭を出す）。

にばんじゃー nibandza: [名] 二番座。

にばんどうい nibandui [名] 二番鶏。二番目に鳴く鶏。一番目に鳴くのはいちばんどういと言う。

にむちい nimutsi [名] 荷物。手に持ったり運搬したりする物。がばー～（大きな荷物）。いみ～（小さな荷物）。㊦にむっちゅ むちい（荷物を持つ）。

にむとう nimutu [名] 根元。根の部分。

にゃーん nja:ŋ [形] ②ない。物事が存在しない。㊦くまんな しゅむっちゃ ～（ここには本はない）。②動詞の接続形について、完了の意味を表す。㊦んみゃ ていがみゃー かきー～（もう手紙は書いてしまった）。

にゃーん nja:ŋ [副] ように。㊦つぶあが～ ないぶしいむぬ（君のようになりたい）。

にゅう njuu [動] 寝る。横になって休む。また睡眠をとる。にゅーむぬい（寝言）。

にゅーいちい njui:tsi [名] 寝息。

にゅーかん njuk:kaŋ [形] 遅い。のろい。にゅーぬーま（のろい馬）。

にゅーぐすい njugusui [名] 睡眠薬。眠れない時に飲んで眠れるようにする薬。

にゅーじいぶん njuzi:buŋ [名] 寝る時間。

にゅーさりかじゃ njusarikadza [名] すえたにおい。まいぬ～（ご飯のすえたにおい）。

にゅーさりかん njusarikag [形] すえたにおいである。

にらいかない niraikanai [名] 海上かなたの楽土。

にらう nirau [動] 狙う。目標を定める。㊦とういゆ にらいー うちい（鳥を狙って撃つ）。

-にん-nig [接尾]（新）人を数える単位。いちにん（一人） ににん（二人） さんにん（三人） じゅーにん（十人）。普通は、たうきゃー（一人） ふうたー（二人） みちゃー（三人） ゆたー（四人） いちいぬひとつ（五人） むゆぬひとつ（六人）のように数える。

-にん -nig [接尾]（新）年を数える単位。いちにん（一年） ににん（二年） さんにん（三年）と数える。

にんいり nĩgiri [名] (新) 念入り。よく気をつけて何かを行なうこと。㊤～ん さうっ
じゅ あっす (念入れに掃除をしなさい)。

にんがん nĩggag [名] (新) 念願。事の実行を常に願っていること。んきゃーんからぬ～
(昔からの念願)。やーにんじゅぬ～ (家族の念願)。

にんぎん nĩggig [名] 人間。人。喜怒哀楽を持つ動物。～かんきー (人間関係)。～こく
ほー (人間国宝)。～み (人間味)。

にんすー nĩgsu: [名] (新) 年数。ある時からある時へ要した年の数。

にんそー nĩgso: [名] (新) 人相。人の顔に現われると言われる運勢や性格。㊤～ゆ み
い (人相を見る)。

にんじゅ nĩndzu [名] 人数。①集まりに集まっている人々のこと。②一団の意となる。
やーにんじゅ (家族)。ぶどういにんじゅ (踊りをする一団)。

にんじゅー nĩndzu: [名] 年中。一年の間。にんじゅーぬくとう (年中の事)。

にんじょー nĩndzo: [名] (新) 人情。人が持っている人間らしい心。にんじょーばなしい
(人情話)。

にんにん nĩnnig [副] 年々。年ごとに。㊤～ っすっさぎぬ はーさ ない (年々白髪が
増える)。

ぬ

ぬ nu [助] の。格助詞。①体言や副詞について次の体言を修飾する。いんぬっふあ (犬
の子)。しいぐぬとうきや (直ぐの時)。②主格を表す。㊤はなぬ さちい (茶が咲く)。

ぬい nui [名] 糊。でんぶん質のものを煮て粘りを出したもの。㊤～ゆ ちいきい (糊を
付ける)。

ぬい nui [動] 塗る。色などを物の表面にすりつける。㊤いるー たなんかい ～ (色を
板に塗る)。

ぬいかいしい nuikaisĩ [動] 縫い返す。逆方向に縫ったり縫い直したりする。

ぬいくん nuikug [名] 縫い込み。物を中に入れて縫うこと。

ぬいくん nuikug [動] 縫い込む。物を中に入れて縫う。㊤わたう ふうとうんかい ～
(綿を布団に縫い込む)。

ぬいっすい nuissui [名] 塗り薬。塗って病気を治す薬。

ぬいなうしい nuinausĩ [動] 縫い直す。縫ったものをほどいて改めて縫う。㊤まちいがい
とうくнау ～ (間違った箇所を縫う直す)。

ぬいばい nuibai [名] 縫い針。縫うための針。まちばい (待ち針) の対。

ぬいみー nuimi: [名] 縫い目。縫った糸の目。まうとうな～ (真っ直ぐな縫い目)。ゆが
ん～ (歪んだ目)。

- ぬいむぬ nuimunu [名] 縫物。裁縫。㊤ぬいむぬー むちいかしいかん（裁縫は難しい）。
- ぬう nuu [動] 縫う。糸を通した針を出し入れして布などを継ぎ合わせる。㊤ちいんぬ
～（着物を縫う）。
- ぬー nu: [名] 野。草などが生えている自然の広地。
- ぬーい nui [動] 乗る。載る。外から移動して何かの上に位置を占める。㊤ぬーまんかい
～（馬に乗る）。しんぶんかい ～（新聞に載る）。
- ぬーい nui [動] 登る。過程に注目して上に移動する。ぬーいふうちい（登り口）。㊤や
まんかい ～（山へ登る）。
- ぬーいうり nui:uri [名] 登り降り。過程に注目して上下に移動すること。かいだんぬ～
（階段の登り降り）。やまんかいぬ～（山への登り降り）。
- ぬーいぬーま nu:inu:ma [名] 乗り馬。乗馬用の馬。
- ぬーいふうちい nu:i:futsi [名] 登り口。㊤ぬーいふうっちゅ ふうさじいな（登り口をふ
さぐな）。
- ぬーいむぬ nu:imunu [名] 乗り物。人を乗せて運ぶ交通機関。㊤ばっさ ～（バスは乗り
物だ）。
- ぬーしい nu:fii [動] 乗せる。載せる。㊤ぬーまんかい ～（馬に乗せる）。しんぶんかい
～（新聞に載せる）。
- ぬーだ nu:da [名]（地）野田。平良市字大浦の北約 2 km に位置する森林地域。
- ぬーま nu:ma [名]（動）馬。ウマ科の耕作・乗用に使う家畜。びき～（雄馬）。みー～
（雌馬）。
- ぬーまぬたちい nu:manutatsi [名] 馬小屋。馬をおく小屋。
- ぬーまぬっさ nu:manussa [名] 馬の草。馬の食べる草。
- ぬーまぬふうらがた nu:manufuragata [名]（昆）とのさまバッタ。頭と胸部は緑色で、全
長五～七センチの大形バッタ。
- ぬーまぬやー nu:manuja: [名] 馬小屋。ぬーまぬたちいとも言う。
- ぬか nuka [名] 糠。米・麦などを精白する時とり除いた薄い皮。
- ぬがりい nugarii [動]（新）逃れる。危険な状態から遠ざかる。㊤ていきから ～（敵か
ら逃れる）。
- ぬくい nukui [名] 残り。残したもの。ぬくいむぬ（残ったもの）。ふあうぬくい（食べ残
り）。とういぬくい（取り残り）。あしいぬくい（為残り）。
- ぬくい nukui [動] 残る。すべて無くならないで、後に幾らか有る。㊤しーとうぬ がっ
こーん ～（生徒が学校に残る）。
- ぬくいだか nukuidaka [名] 残高。残額。収支を勘定して、後に有る金額。
- ぬくいむぬ nukuimunu [名] 残り物。㊤ぬくいむぬー ふあう（残り物を食べる）。

ぬぐう nuguu [動] 拭きとる。汗・涙・汚れなどを拭いて無くする。㊤なだう ～（涙を拭う）。

ぬくしい nukusi [動] 残す。まだ後に何か有るようにする。㊤ふあうむぬー ～（食べ物を残す）。

ぬくじいー nukudzī: [名] 鋸。材木などを切る道具。ぬくじいーぬはー（鋸の歯）。ぬくじいーぬくじい（鋸のくず）。

ぬしい nusi [名] ①主。主人。②所有者。やーぬぬしい（家の所有者）。

ぬじい nudzī [動] 追い抜く。追いついて先になる。抜く意味ではんじいndzīを用いる。
㊤ぎーから ゆたーい ぬぎー いちいばんー ない（びりから四人追い抜いてトップになる）。

ぬしいどう nusidu [名] 盗人。泥棒。他人の物をだまって自分のものにする人。やなぬしいどう（いやな盗人）。ぬしいとうまゆ（泥棒猫）。

ぬしいとうまゆ nusitumaju [名] 盗みをする猫。泥棒猫。

ぬしいん nusiŋ [動] 盗む。他人の物をだまって自分の物にする。㊤でいんぬ ～（金を盗む）。

ぬずみや nudzumja [名] 望む人。求婚者。

ぬずん nudzuŋ [名] 望み。希望。よくなりたい願い。㊤っぶあが ～な なう（君の望みは何だ）。

ぬずん nudzuŋ [動] 望む。物事を希望したり求婚したりする。㊤うやきゅー ～（金持ちを望む）。ばー かりゅーどう ～（ぼくは彼女を望む）。

ぬちい nutsī [名] 軒。屋根の下にある張り出した部分。

ぬどう nudu [名] 喉。口の奥にある部分。まる～（短い喉）。なが～（長い喉）。喉がいのように声の意味では用いない。ぬどうぶに（喉仏）。

ぬどうい nudui [名] 喉。ぬぶいとも言う。

ぬどうか nuduka [名]（新）のどか。落ちついて静かな状態。

ぬどうがーちい nuduga:tsī [名] 喉が渴くこと。㊤なちいんな ゆーどう ～ぬ あしい（夏にはよく喉渴きがする）。

ぬどうぶに nudubuni [名] 喉仏。喉のとんがった骨。

ぬぬ nunu [名] 布。麻・もめんなどの織物。あか～（赤布）。あさ～（麻布）。むみん～（もめん布）。ばさ～（芭蕉布）。～うい（布織）。㊤ぬぬー うい（布を織る）。

ぬぬうい nunuui [名] 布織。布を織ること。

ぬぬうりや nunuurja [名] 布を織る人。布は女性が織った。

ぬぬぐちい nunugutsī [名] 布でできた靴。かーぐちい（皮靴）に対して言う。

ぬびあがい nubiagai [動]（新）伸び上がる。㊤ぬびあがりー みい（伸び上がって見る）。

ぬびー nubi: [名] (植) 野蒜。ユリ科の植物で臭いがあり食用とする。

ぬびぬび nubinubi [副] (新) のびのび。㊤～ん なりー うい (のびのびになっている)。

ぬぶい nubui [名] 喉。ぬどういとも言う。

ぬぶいふうじい nubuifudzī [名] 喉と首。頭と胴体を結ぶ部分。

ぬぶた nubuta [名] おでき。できもの。皮膚がはれて膿んだもの。くば～ (堅いおでき)。

やば～ (柔らかいおでき)。㊤～う あーしい (おできを零す)。

ぬみくん numikun [動] (新) 飲み込む。喉から落とす。理解する意味はない。㊤ふあう
むぬー ～ (食べ物を飲み込む)。

ぬる nuru [名] のろ。神女。沖縄本島方言から入った語。

ぬるかん nurukan [形] ぬるい。お茶や風呂などが熱くない。ぬるちゃー (ぬるいお茶)。

ぬるゆー (ぬるい湯)。㊤きゅーぬ ゆーや ～ (今日の風呂はぬるい)。

ぬるぬる nurunuru [擬態] ぬるぬる。なめくじなどの状態。㊤んーなぬ ～ていー う
い (貝がぬるぬるとしている)。

ぬるちゃー nurutfa: [名] ぬるいお茶。熱くないお茶。

ぬるみじい nurumidzī [名] ぬるい水。ぬるゆーとも。

ぬるゆー nuruju: [名] ぬるま湯。ぬるい風呂。

ぬるん nurug [動] ぬるむ。湯などの温度が奪われ熱くなくなる。㊤ちゃーぬ ～ (お茶
がぬるむ)。

ぬん nug [名] (昆) 蚤。ノミ科で人畜の血を吸う赤茶色の昆虫。

ぬん nug [名] 鑿。大工が材木に穴などをあけるのに使う道具。

ぬん nug [動] 飲む。口に入れたものを喉から落とす。声を飲む。涙を飲むなどの用法は
ない。㊤みっじゅ ～ (水を飲む)。

ぬんだい nundai [名] 飲み代。酒を飲むための金。

ぬんっすい nugssui [名] 飲み薬。飲んで病気を治す薬。ぬいっすい (塗り薬) の対。

ぬんどうしい nundusi [名] 飲み友達。主に酒を飲むための友達。

ぬんはていい nughatii [動] 飲み果てる。残らないように飲む。㊤ちゃーゆ ～ (お茶を
飲み果てる)。

ぬんふうちい nugfutsī [名] 飲み口。飲む時に口に当てる部分。㊤さしぬ ～から みっ
じゅ ぬん (柄杓の飲み口から水を飲む)。

ぬんみじい nummidzī [名] 飲み水。飲むための水。あらいみじい (洗い水) などに対し
て使う。㊤ぬんみっじゅ へん (飲み水を汲む)。

ぬんむぬ nummunu [名] 飲み物。嗜好品として飲むもの。㊤ぬんむぬー かい くう
(飲み物を買って来い)。

ね

ねーねー ne:ne: [名] (新) 姉。同じ親から生まれた年上の女性。ばが〜 (私の姉)。っぶあどうが〜 (君達の姉さん)。〜がちいん (姉の着物)。

ねじ nedʒi [名] (新) ねじ。ねじ込んで物を止めたり、ぜんまいを巻く装置。㊤ねじゅーまふう (ねじを巻く)。

ねじまわし nedʒimawafi [名] (新) ねじ回し。ねじの頭に当てて、ねじを入れたり出したりする工具。㊤〜ひー ねじゅー まーしい (ねじ回しでねじを回す)。

ねんからねんじゅー neŋkaranendʒu: [副] (新) 年がら年中。飽きずに常にその状態を保っている様子。㊤〜 しゅむっちゅばかーい ゆみー うい (年がら年中本ばかり読んでいる)。

の

のー no: [名] (新) 脳。頭蓋骨の中にあり、精神の働きを司る柔らかくひだのあるもの。普通じいーdzĩ:と呼ぶ。じいーあっぶあ (脳みそ)。

のーばいぬ no:bainu [連体] (新) どんな。そのものを性質・状態などの点で限定することができないことを示す。普通はなうばいぬと言う。のーばいぬびとう (どんな人)。のーばいぬむぬ (どんな物)。のーばいぬかんがいが (どんな考えか)。